

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》○吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也

【概要】

脳血管疾患や脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの中枢神経系の変性疾患に対する理学療法的介入について演習を通して学習する。各種疾患の典型例をペーパーベシエントに用い、評価・問題点抽出・治療プログラム作成の一連のプロセスについてグループワークを通じて演習する。また視覚教材や実技実習を通し基本動作や歩行練習などの基本的治療技術を習得する。

【学習目標】

脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。

1. 各疾患の病期に応じた理学療法の目的を理解し、評価項目の抽出ができる。
2. 得られた評価結果をもとに問題点を把握し、理学療法プログラムを立案できる。
3. 各病態に応じた基本的な理学療法手技が実践できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 }	脳卒中の理学療法	リスク管理や合併症予防を含む、早期離床を目的とする急性期の脳卒中に対する理学療法について視覚教材やグループワークを通して学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
2			
3 }	脳卒中の理学療法	画像所の診方、理学所見のとり方について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
4			
5 }	脳卒中の理学療法	離床、合併症予防を目的とした早期理学療法の実践について学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
6			
7 }	脳卒中の理学療法	ADL自立、在宅復帰を目指す回復期に必要なFIMなどの評価方法や理学療法介入について学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
8			
9 }	脳卒中の理学療法	回復期理学療法の実践について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
10			
11 }	脳卒中の理学療法	診療記録や報告書の記載方法について学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
12			
13 }	脳卒中の理学療法	急性期の脳卒中患者をモデルとした視覚教材やペーパーベシエントを用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
14			
15	脳卒中の理学療法	回復期の脳卒中患者をモデルとした視覚教材やペーパー	吉田晋

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
16		ーペイシエントを用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
17 18	神経難病の理学療法	パーキンソン病に対する理学療法の実際について学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
19 20	神経難病の理学療法	脊髄小脳変性症や多発性硬化症などの神経難病に対する理学療法の実際について学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
21 22	神経難病の理学療法	神経難病に特有な評価尺度について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
23 24	神経難病の理学療法	神経難病の理学療法について実技演習を通して学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
25 26	神経難病の理学療法	小脳疾患をモデルとした視覚教材やペーパーペイシエントを用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
27 28	神経難病の理学療法	パーキンソン病をモデルとした視覚教材やペーパーペイシエントを用いてケーススタディを行い、評価からプログラム立案に至る理学療法プロセスを学ぶ。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也
29 30	まとめ	神経障害に対する理学療法に関する重要事項について整理する。	吉田晋 澤田篤史 佐藤一成 鈴木伸弥 岩部達也

【評価方法】

期末試験60%、演習前後の課題レポート40%で評価する。

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。レポートについては模範解答例をmanaba上アップするので確認すること。

【備 考】

教科書：千野直一 編 「脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編]」 金原出版 2012年

参考書：細田多穂 監 「中枢神経障害理学療法学テキスト」 南江堂 2008年
潮見泰蔵 編 「脳卒中に対する標準的理学療法介入」 文光堂 2007年
森 惟明 他 著 「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見」 医学書院 2010年
宮上光祐 著 「わかりやすい画像から見た脳卒中リハビリテーション」 新興医学出版 2013年
長谷公隆 編 「運動学習理論に基づくリハビリテーションの実際」 医歯薬出版 2008年

【学習の準備】

授業は基本的に2コマ連続で行う。授業時間内は原則グループワークを行う。manabaで動作分析や症例についての課題が事前に出されるので、しっかりと課題を作成して授業に臨むこと(100分)。グループワーク後にレポート課題が出され、成績に反映するため必ず提出すること(100分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに理学療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士）澤田篤史（理学療法士）佐藤一成（理学療法士）鈴木伸弥（理学療法士） 岩部達也（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での臨床経験をもとに演習、実技演習を行う